

第 47 回全国学童保育指導員学校・西日本・岐阜会場（20220605）レポート

【クラブ】（ なかよしクラブ ）

【名 前】（ 吉川美里 ）

① 午後に参加した講座のタイトルをお書きください。

（特別）講座（No.9）（ コロナ禍の学童保育をめぐる情勢 ）

② この講座を選んだ理由をお書きください。

特別講座とは何だろう？今までにない何かが学べるかもしれないと思い、選択しました。

③ 本日の講座で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

午前の全体講演では、日頃の学童保育生活の中で感じていることを一つ一つ丁寧に言語化して振り返ることが出来たように思います。改めてゆっくり振り返ることで、細かい所まで考える良い機会となりました。子ども一人一人の感情を大切に、心の声を聴く努力をしていこうと思いました。

特別講座ではコロナ禍の学童保育・子どもたちの育ちと脆弱性を学びました。最初に まだコロナ禍で 収束しきれていない中、学童保育所や学校でのこれまでの制限や子どもたちの様子、今の現状について、色々な事例から心の裏側にあるものを考えました。子どもたちも指導員も多くの制限が続いてきました。子どもたちは3年もの長い間、我慢せざるを得ないことも増え、理解しようと努力し本当によく頑張ってきたなと思います。事例の一つに、発達しょうがいのある子どもがどうしてもマスクが出来ず、ずるい！と、子どもに自粛警察的な反応があったことに対する 指導員の対応に、子どもが納得しているか悩んだとありました。子ども同士の関係までもコロナの影響が出ていることの心配や、不完全燃焼のままでいいのか悩む指導員の気持ちがよく分かりました。特におやつ時間は“楽しい時間であってほしい”というのは、指導員みんなが願っていることです。安心して楽しく過ごせるにはどうしたら良いか、どの学童保育所の指導員も頭を悩ませ、試行錯誤で頑張っていることが伝わってきました。今回はコロナ対策と実践のはざま、自分と同じようにこれでいいのかと苦しんでいる指導員の声をたくさん聞くことが出来ました。

先生から何度も繰り返し出て来た言葉に、“学童は子ども本来の顔を見せる場所、裸の心をそのまま出して、魂をぶつけられる場所それが学童保育所”とありました。毎日一緒に過ごしていると、魂のぶつかり合いが出来る場所だなど、指導員になってからふと思うことが度々あったので、この講座でのこのキーワードが一番の驚きでした。

学童保育は魂の仕事であり、その子の世界に“入り込んで内面を感じ取って気持ちを理解すること”が大切であるということでした。問題行動だけを見ず、どうしてそういう行動をするのか、そうせざるを得ない気持ちを 入り込んで理解できるようにしていきたいです。指導員は揺らいでいい、揺らぐことが成長に繋がっていくと思いました。

指導員全員の子どもの理解のレンズを通して“複眼で見る”という努力、自分にゆとりを持てるようにし、かつ丁寧な保育をしていきたいと思います。